

総合学習、中学担任の55%否定的

2002年度から導入された「総合的な学習の時間」について、中学校担任は55.2%が否定的だったことが文部科学省の意識調査でわかった。調査は、全国の小中学生、保護者、教員、首長ら計約3万6000人を対象に今春実施した。

総合学習を「とてもよいと思う」「まあよいと思う」を合わせた肯定派は、小中学生の保護者全体の7割近くにのぼり、小学校の担任でも否定派を16上回ったが、中学校担任では否定派が過半数を占めた。総合学習を今後どうすべきかという設問では、「なくした方がよい」が中学担任で57.2%と突出し、小学担任は38.3%だった。「総合学習専門の先生を置くべきだ」と答えたのも中学担任が58.8%で最多だった。

子どもの考えを、授業の理解度で5つのグループに分けて分析したところ、成績上位・下位の中学生が総合学習に対して否定的で、中位の中学生は肯定的な傾向があった。

朝日子供ダイジェストより